

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月1日(木) 14時00分～15時40分
- 3 開催場所 関高等学校校長室
- 4 参加者

会 長	大野 正博	朝日大学法学部 教授(欠席)
副会長	福田 恵介	福田刃物工業株式会社 取締役
委 員	平田 久美子	平田建設株式会社取締役
	衣斐 七海	関市 産業経済部観光課(欠席)
	村井 義史	本校 同窓会 副会長
	和田 誠司	本校 P T A会長
学 校 側	武田 理	校長
	関谷 篤	教頭
	小島 和秀	教頭
	大野 仁史	事務部長
	川原 正史	教務主任
	杉山 広之	生徒指導主事
	片桐 良子	進路指導主事
	林 直樹	研究推進部長(欠席)
	松野 恭太	特別活動部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 本年度の自己評価・学校関係者評価について(教務、生徒指導、進路指導、特別活動、探究推進)

意見1: 授業を参観し、学校運営協議会で様々な取組を聞いている限り、少子化のなかで関高校は、真摯に努力していると思う。必ずしも国公立大学への進学に固執することなく、現在の生徒のニーズに応じた形で改革し、そのなかで入学時より高い目標を生徒自身が設定できるように工夫されている。

意見2: 運営協議会に参加してまだ数年だが、良い変化を感じる。報告の中で、学校のことを包み隠さずオープン化してされているので、今年はいまよりいいけど来年は改善したいという内容の話を何回か聞くことがあった。失敗を認め、それを改善しようという発想は良いと思う。

意見3: 生徒が将来的にどんな生徒になって欲しいかということだが、社会人の目線で言うと、どんな苦難や壁にぶち当たっても、立ち直れる人物かということが重要である。失敗しても立ち直れるような、困難を乗り越えていく精神を身に付ける指導が大切ではないか。

意見4: 関高校では多岐に渡った活動を、高校3年間で実践できるように教員が生徒に尽力している。高校生活において生徒は丁寧扱われている。

意見 5：防災関係について、年末に北陸地方を中心に大きな地震があった。学校の防災活動は避難訓練などだと思うが、より具体的なことを意識した訓練を実施すると良い。「災害伝言ダイヤル」は電話が不通になったとき利用できるものだが、スマホでは繋がらず固定電話でないと利用できないことを自分の体験から知った。学校では具体的な防災対策は行っているのか。
⇒防災関係の内容を確認し、より具体的な防災対策について再検討したい。

意見 6：他地区の高校への流出がみられるが、関高校のよさ、魅力を発信してほしい。

意見 7：不登校の生徒について、中学校から同じ傾向があったのか。

⇒中学校から不登校傾向のあった生徒もいるが、高校に入学してから自分の学力や進路に悩んで欠席が多くなっている生徒もいる。また、中学校とのギャップに悩んでいる生徒もいる。

意見 8：保護者の立場から言うと、不安定だった自分の子どもが文化祭などを通して人との関りを上手くやっていけるようになり、安定した姿を見て嬉しかった。

また、探究活動を通して、新しい自分の価値を見つけられるようになって喜ばしい。

意見 9：文化祭バザー等を通して、関高生のマナーの良さを感じた。

意見 10：PTAが主催する事業に関しては、学校のことを他の保護者に伝えることが大切であると感じた。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会において、令和5年度のスクールポリシーを令和6年度も引き続き継続することを運営委員の皆様から承認を得ることができた。また、今年度の学校の取り組みの報告と各分掌の自己評価について説明を行った。運営委員の皆様から、多くの忌憚のないご意見・ご提言をいただき、概ね肯定的な評価を得た。いただいたご意見やご提言は、来年度の学校経営計画の策定に反映させたい。